

科目名	社会調査技法			
授業形態	講義	学年	1	
開講時期	2021年度 後期	単位数	2	
担当教員	青木 孝弘			
内容および計画	現代社会では、データに基づいて政策を議論したり、企画を立案することが、当然とされています。社会調査は、データを収集し、分析し、報告する一連の活動を指しますが、この授業では、社会調査を適切に実施するスキルを身につけること、またその結果を正しく吟味する能力の養成を目指します。			
1	ガイダンス（授業の進め方、評価方法、受講者の関心等）			
2	質的調査①インタビュー調査			
3	質的調査②写真観察法			
4	調査票調査①種類、方法、プロセス			
5	調査票調査②質問文・選択肢作成			
6	調査票調査③エディティング、コーディング			
7	世論調査			
8	中間試験			
9	二次分析			
10	サンプリング			
11	統計的検定			
12	量的変数の分析①			
13	量的変数の分析②			
14	グラフ作成			
15	報告書の作成、プレゼンテーション			
教科書				
	タイトル	著者名	出版社	発行年
講義資料・データ等を配布します。				
参考書	大谷信介・木下英二・後藤範章・小松洋（2013）『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房 森 靖雄（2005）『新版 やさしい調査のコツ』大月書店 轟 亮・杉野 勇（2010）『入門・社会調査法』法律文化社 本多正久・牛澤賢二（2007）『マーケティング調査入門—情報の収集と分析』倍風館 佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク増訂版—一書を持って街へ出よう』新曜社			
成績評価				
	評価方法			割合(%)
	筆記試験			30
	最終報告書			30
	各回の課題（インタビュー、ニーズ調査、写真観察法など）			35
	出席状況・授業への積極的な貢献・課題			5
・調査に基づくレポートと、理解度確認テスト、および授業への貢献で評価します。				

・各回出席状況を確認します。

<b>学習到達目標</b>	社会調査の基本的な理論と方法を理解し、アンケートやインタビュー調査の基礎スキルを習得すること。
<b>先修条件</b>	統計学を履修することが望ましいが、必要な基礎知識は授業の中で説明します。
<b>実務経験</b>	実務経験あり：名古屋市内の会計事務所（3年）、ワシントンDCの経営支援組織（1年）において会計支援・コンサルティング業務に従事後、地域活性化分野で社会的企業を創業し、マーケティングリサーチ、公共交通調査、観光調査等に15年以上従事してきた。この経験をもとに、社会調査の基礎、応用について教授する。
<b>その他</b>	社会調査の楽しさ、奥深さを一緒に体験しましょう。 調整がつけば予定を一部変更して、実際にフィールド調査を実施いたします。